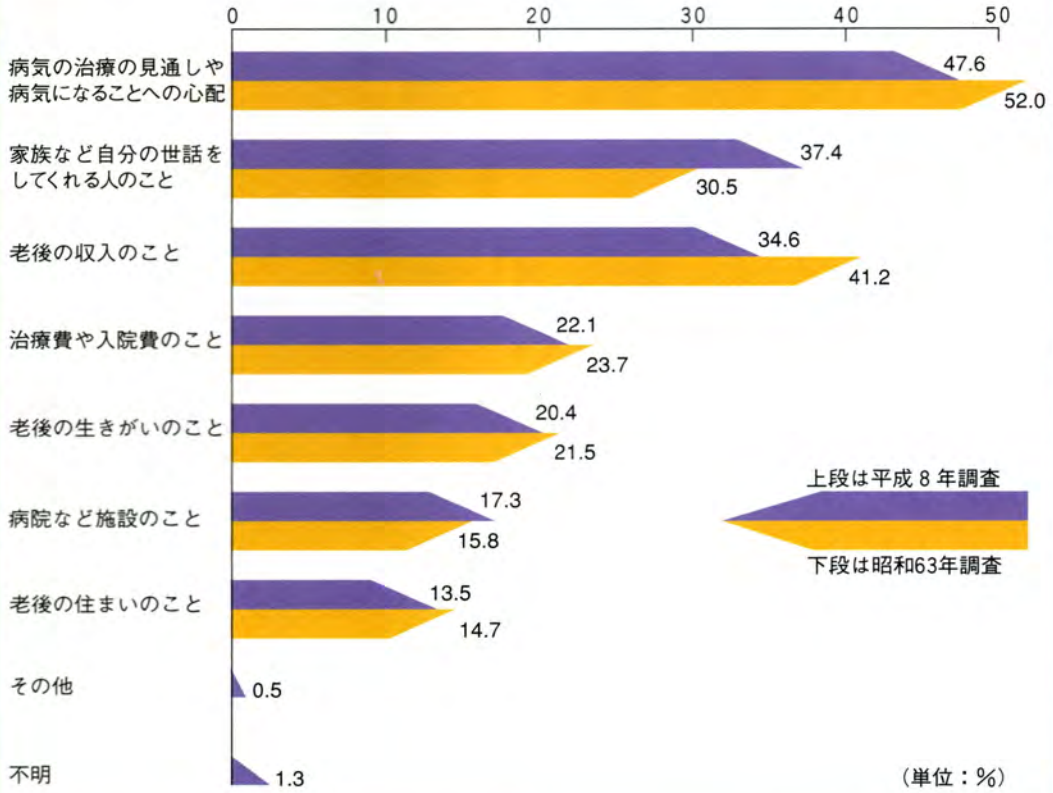


病気・老後の心配ごと

自分の病気や老後についての心配内容 (昭和63年と平成8年・複数回答)

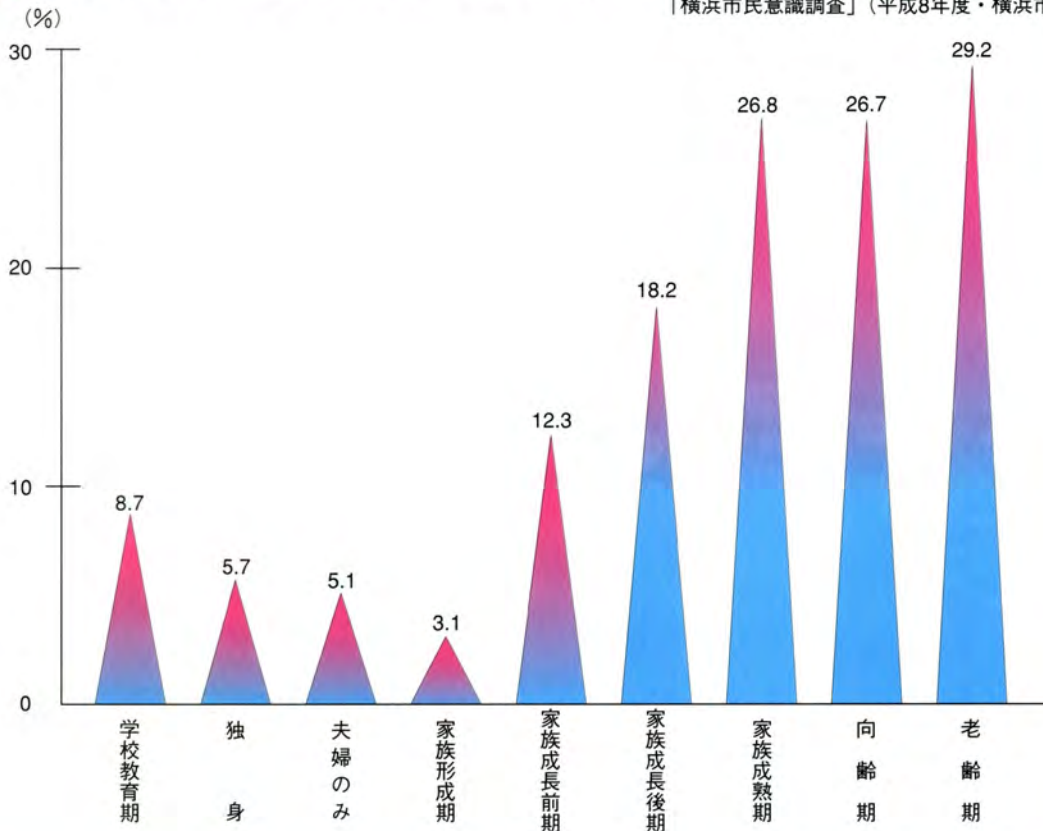
「横浜市民意識調査」(平成8年度・横浜市)

・「自分の病気や老後のこと」の心配ごとの内容は、「病気の治療の見通しや病気になることへの心配」がトップ。ついで「自分の世話をしてくれる人。昭和六十三年と比べると、「病気になることへの心配」と「老後の収入」は減少し、その分「自分の世話をしてくれる人」が増加。



自分の病気や老後についての心配ごと (ライフステージ別)

「横浜市民意識調査」(平成8年度・横浜市)



・ライフステージでは、「家族成熟期」(第一子が学校教育を終えた独立した子をもつ親)から増加する。老齢期では約三割に上る。年齢的には男性五十代以上、女性四十代以上で二割を越える。

病気・老後

病気の心配

義兄さん。

先日の妻の検査の結果が出ました。やはり肝炎、それも、亡くなったお義母さんと同じC型でした。

GOT、GPTが四二〇を超えているので、安静が必要だとのこと。入院させて欲しいと頼んだのですが、ちょうどベッドが空いていない。GOT、GPTが五〇〇を超えていれば、無理してでもベッドを空けて入院させるが、院内感染の問題もあるので、個室が空くまでしばらく自宅で休ませるように、とのことでした。正直なところ、参りました。

とりあえず、子どもたちのことは学校に事情を話して、「はまっ子ふれあいスクール」というところに入れてもらうようにしました。といっても五時までは、僕が仕事を終えて帰るには間に合いません。

そこで、彼女が親しくしている町内の奥さんに相談してみたところ、すぐにはかの奥さんたちに呼びかけてくれて、みんなで面倒をみてくれるそうです。「こともログハウス」といって、彼女が参加していた地域の公園の施設運営グループのメンバーの奥さんたちです。コミュニティというのですか、地域のつながりのありがたさを、つくづく感じました。

家事は、僕が早起きして、できる限りやるようにし、彼女の負担を最小限にしようと思います。かといって、これから先、自分の仕事もおろそかにはできませんが。

C型肝炎のこと、帰りに本を買い込んで読みあさりしました。確かにこれからのことを考えると、大変だなと思います。

でも、義兄さん、僕への気遣い、気兼ねは無用にしてください。僕は、彼女と一緒に生きるために結婚したのです。どんなことになっても、彼女と子どもたちは守っていきますよ。

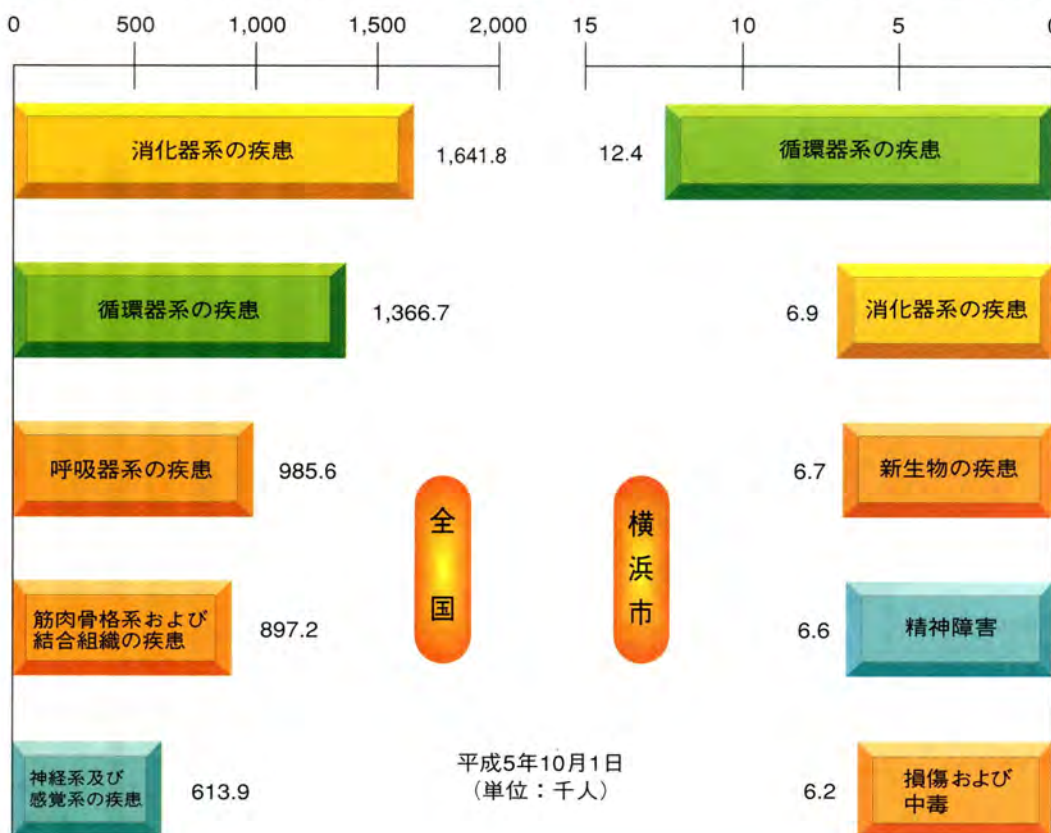
以上、取り急ぎご報告まで。

(磯子区 M・Oさん 四十二歳)

入院・外来患者調査 (上位5位)

「患者調査」(平成5年・厚生省)

・市民の病気は、全国と比べると特徴がでる。一位、二位は循環器系、消化器系で全国との差はないが、三位に悪性新生物、四位に精神障害、五位に自動車事故などの損傷および中毒があがっている。



老後は別居志向

昨日の話、どうしますか。

おまえのしたいようにしろ、俺はどっちでもいいなんて、本当は、自分が一番孫と一緒にいたいくせに、ずるいですよ。そりゃ、わたしだって、孫の世話をしながら暮らせるのは楽しいですよ。それに、岡山だったら暖かいし。でもね、今は「かわいいかわいい」でいられる孫たちも、すぐに大きくなっていくし、その分、わたしたちも歳をとっていくのですよ。

あと何年生きられるか知らないけれど、歳をとることになんていくのかわからないけど、わたしは、これまでの人生のほとんどを、あなたと横浜で過ごしてきたのですから、残された余生も横浜で送るものだと思ってきました。子どもたちの人生は、子どもたちのもの、孫たちの人生は、孫たちのもの。だから、わたしはここで、あなたとの人生を全うしたい、と思っています。

ここに骨を埋めるんだ、と思っていますから、地域の人も仲良くお付き合いしているし、老人会にも入っているの。食生活改善グループ活動や、地域ケアプラザのボランティアに参加するのも、ここで、残された日々を送ろうと決めているからなの。

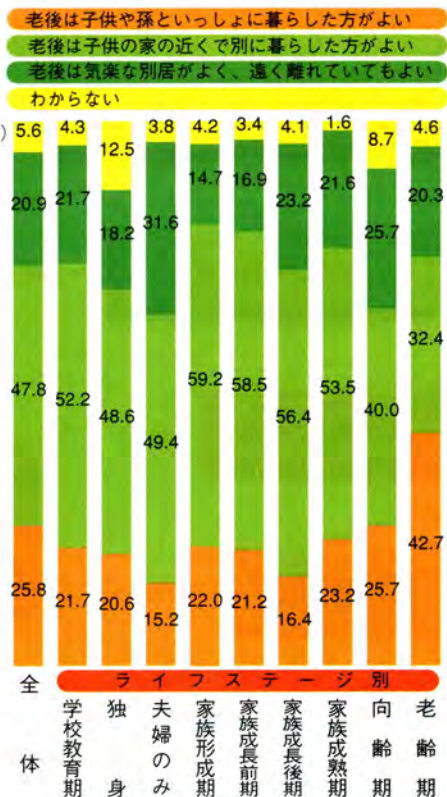
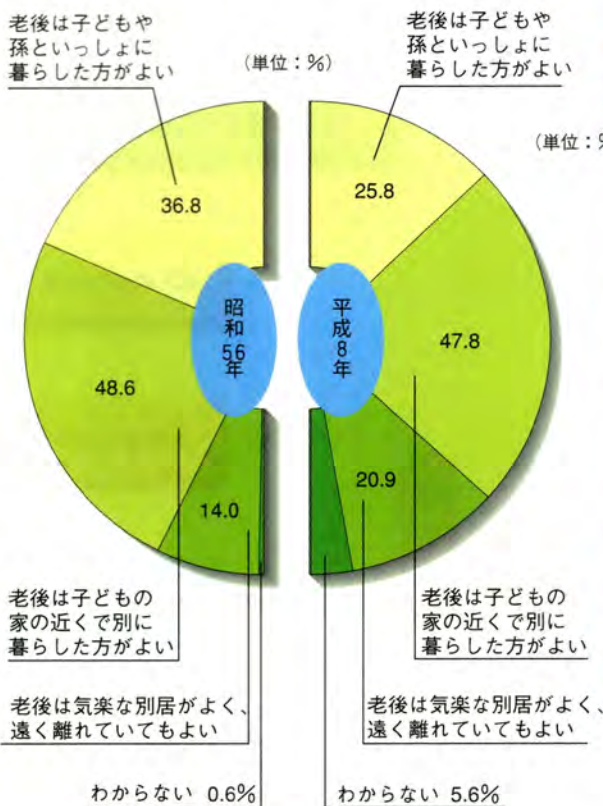
息子とそのお嫁さんが、一緒に暮らそうって言うてくれるのは嬉しいけれど、孫の顔が見たいと思ったなら、新幹線一本で、いつでも行かれるじゃないですか。

というわけですから、あなたも観念して、ここで一緒に暮らし続けましょう。それと、老人会や、ケアプラザの活動にも出かけてくださいな。けっこう、男の人が必要なこともあるのですよ。

(金沢区 N・Tさん 六十七歳)

老後の過ごし方 (昭和56年と平成8年の比較・ライフステージ別)

「横浜市民意識調査」(平成8年度・横浜市)



・この十数年で、「遠く離れていても気楽な別居」を好む人が大きく増加し、「子供と孫との同居」は10%以上減少。
・しかし、「同居」志向は、「老齢期」では四割を越える。

様々な老後

電話をありがとうございました。

「介護付き老人ホーム」に入ってから、やっと少し慣れました。マンションにも、一戸建てにも住みましたが、まさか私たち夫婦でこういうところにご厄介になるとは、思ってもみなくて……慣れるのに時間がかかりました。

お礼が遅れました、入居の時にはひとかたならぬお世話になり、ありがとうございました。何かから何までやっていただき、感謝しています。

この「介護付き老人ホーム」は、面白いところです。いろんな人生を歩んで来た人が集まっているのですから、面白くないはずはないのですが、「介護付き老人ホーム」の良いところだけを見て、生きようと二人で話しています。夫婦で一緒に入ったから、われわれは本当に幸せだと思っています。この歳になって知らない人の中に、一人で放り出されたら、寂しいことだと思います。

近くまで来られたら、必ず寄ってください。お待ちしております。

(瀬谷区 H・Hさん 七十二歳)

母さんは、どうしても一人で住むのですか。年寄りの一人暮らしは、何かと大変ではないのですか。茂之さんも、敏之も晴美も、みんな喜んで母さんのことを迎えてくれます。

横浜はまだ自然が残っているところもいっぱいあるし、海が近いので冬でも暖かいですよ。身体にも、きつと合うと思うのですが、いかがですか。

私だって、結婚するまでは関西から出たことがなかったから、最初は不安でいっぱいでした。名古屋より東になって、住みたくなかったけれど、いいところですよ、海だって見えるし。

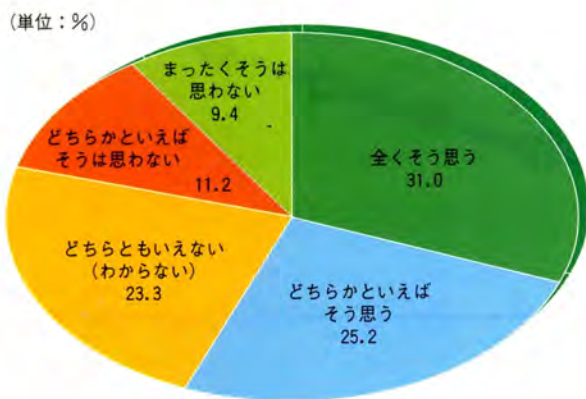
確かに歳をとると、新しい場所に移るといえるのは大変かもしれませんが、私としては、とても心配です。近所の人たちは昔から知っているから、母さんのことを気を遣ってくれるかも知れないけど、いざとなったらどうなるかわからないでしょ、全てをまかせられるわけではないと思います。とにかく、とても心配しています。

(磯子区 N・Tさん 三十九歳)

老後の施設入所意向

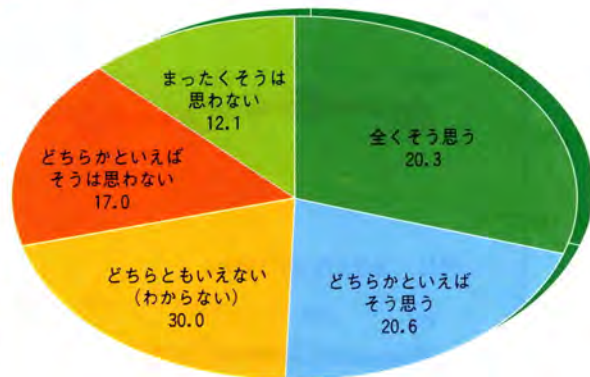
「横浜市民意識調査」(平成8年度・横浜市)

・自分が寝たきりになった時に希望する介護形態は「設備のよい施設に入ってもらいたい」が五六・二%、親が年老いて寝たきりになった時は、四〇・九%である。



自分が年老いて寝たきりになったら、設備のよい施設に入って、めんどろをみてもらいたい

親が年老いて寝たきりになったら、設備のよい施設に入れて、めんどろをみてもらうのがよい



増えるひとり暮らし

久子さん、皆元気に過ごしていますか。年末に贈ってくれたお正月の花、ありがとうございます。とうとう二月のおじいちゃんの祥月命日までもたせましたよ。

ひとり暮らしもう七年になるけれど、最初のなんとも言えない寂しさから立ち直るのに二年はかかったかしら。今は、お友達と写経に月一回通い、三味線もずーっと続けているのよ。今度は、シルバードダンスも習い始めようかと思ってるの。体にとってもいいみたいだから。一番、楽しみなのはお友達がたくさん訪ねてくれて、おしゃべりすること。学生時代にお金持ちで、一番幸福そうだった人が、その後の人生で不運につきまともわれ、どん底の暮らしをしていたりして気の毒なんだけど、その人愚痴っぽくなくて、とても素敵なのよ。苦労が顔に表れない、というのか。

人生の機微を、たくさんの友達の一生を見ながら考えます。自分の一生を振り返って、今の自分にほどの満足をしています。

ともかく、あなたたちにやっかいをかけたくないから健康にだけは気をつけています。食事に注意をして、規則正しい生活をし、健康診断も受けています。それが今わたしにできる一番大事なことだとわきまえています。こちらのことは、心配しないで。

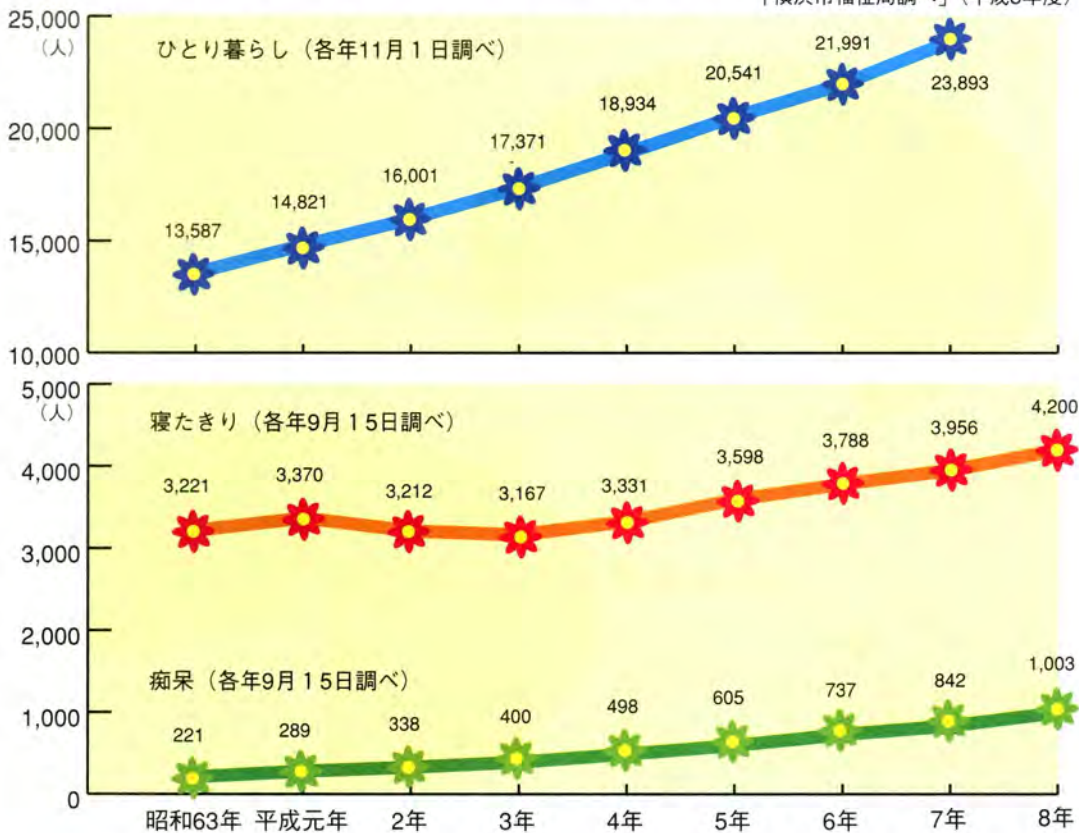
孫三人とあなたが夫婦が健康で元気に生活できるように毎日御仏壇に拜んでいます。

また、お電話くださいね。あなたも仕事をしていて忙しいだろうけれど、時間ができたら一度一緒に写経に行きましょうよ。楽しみに待っています。では、また。

(鶴見区 T・Mさん 七十一歳)

ひとり暮らし、寝たきり、痴呆高齢者人員の推移

〔横浜市福祉局調べ〕(平成8年度)



ひとり暮らし、寝たきり、痴呆など要援護の高齢者は、それぞれ増加しているが、とくに痴呆の高齢者は昭和六十三年の二百二十一人が平成八年の千三百人と四・六倍の増加となっている。

ひとり暮らし高齢者と在宅サービス

姉さん、母さんの具合を報告します。先日の風邪で入院した時は、病院嫌いの母さんがいやがるのではないかと心配したけれど、お見舞いの時、病院もなかなかいいね、と言っているので安心しました。退院後は、椅子の生活からほとんどベッドで寝ている状態になりました。食事は自分でとるけれど、肩が痛いとか、目がしょぼしょぼしているようで、今までのように、本を読んだりすることはなくなりました。百一歳という年齢から考えると当然とも思えるけれど、少しずつ弱っていくのは、避けられない現実です。

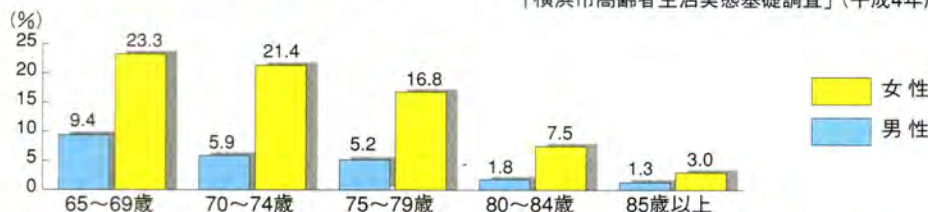
在宅のサービスは入院前と同じです。月曜日から日曜日まで毎日朝六時三十分から六時五十分、巡回のヘルパーの方がオムツ交換と様子を見てくれます。月曜日から金曜日は午前中九時から十二時まで福祉サービス協会のヘルパーさんが来て、お洗濯や昼食の支度をしてくれます。夕食は近くの特別養護老人ホームから配食サービスが届きます。夕方六時から七時は、再び協会のヘルパーさんが、夜には十時三十分から十時五十分まで巡回のヘルパーさんが来てくれます。こんなにくさんの方に支えられて母さんの家での生活が成り立っています。「家で死にたい」という母さんの気持ちが強いから私たちも頑張っているけれど、ときどき、いざというときのことを考えてしまいます。でも、心配しないでください。病院の主治医とも連絡が取れています。いざ、というときはお医者様の力も借りることになっていますから。

（緑区 T・Nさん 七十歳）

今度の日曜日にも、好物のシウウマイを持って行きます。姉さんも身体に気をつけてくださいね。

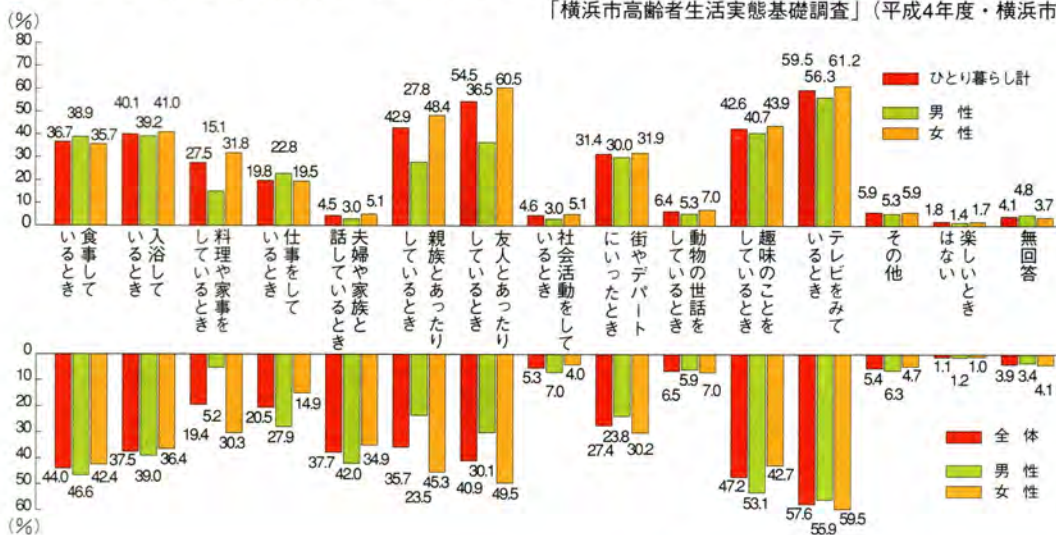
ひとり暮らし高齢者の性・年齢別構成比

「横浜市高齢者生活実態基礎調査」(平成4年度・横浜市)



ひとり暮らし高齢者の毎日の生活の中の楽しみ

「横浜市高齢者生活実態基礎調査」(平成4年度・横浜市)



ひとり暮らし高齢者は、年齢別にみても圧倒的に女性が多く、楽しむとすることは、「友人と会ったりしているとき」や「家事や料理をしているとき」「街やデパートに行ったとき」など、全体と比較すると積極的な自活や外部との接触を挙げる割合が高くなる。